

東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

書物の新しいページを1ページ、1ページ読むごとに、私はより豊かに、
より強く、より高くなっていく。

～『チャーホフの言葉 新装版(人生の知恵)』(弥生書房)より～

1. 『失敗図鑑～すごい人ほどダメだった!』

タイトルに惹かれて手にした『失敗図鑑』。新しい心の指南書と謳われるこの本には、歴史に名を残した偉人たちの意外なエピソードがたくさん描かれています。様々な失敗をしつつも、彼らがどのようにその失敗を乗り越えていったのか、ユーモアあふれるイラストと文章とでわかり易く解説してくれています。ベートーヴェンのエピソードを紹介しましょう。音楽の歴史を大きく変えた(音楽を貴族が楽しむものから誰もが楽しめるものへと導きました)と言われるベートーヴェンは、幼少期から音楽家として活躍していました。28歳の頃、彼は耳がほとんど聞こえなくなってしまいますが、耳が不自由なことを隠したまま、不屈の精神で音楽を作り続けます。彼の失敗は耳が不自由なことを周囲の人々に隠していたこと。耳を休ませるために人との接触を避けていたベートーヴェンは「世間嫌い、人間嫌い」と噂されるようになり、孤独な人生を歩むことになりました。しかし、彼はこの孤独の中で自分自身と真摯に向き合い、音楽への情熱を絶やすことなく燃やし続け、のちに何百年経っても色褪せない数々の名曲を生み出していきます。孤独も悪くない—そんなメッセージが聞こえてきます。

最後に1つお伝えしたいことがあります。それは医療の現場、命にかかわる場面では失敗は許されないということ。このことはお忘れなさいますように。



失敗図鑑 すごい人ほどダメだった!
(大野正人 著/文響社)

2. 日本の古典をよむ⑩『雨月物語』

『雨月(うげつ)物語』は中国の白話(はくわ)小説に想を構えた9つの短編からなる作品です。作者は上田秋成(うへだあきなり/1734~1809)という方で、江戸時代後期に国学者、歌人、読本(よみほん)作家として活躍し、さらには医師としても手腕を振った多才な人物です。白話小説とは「話し言葉」で書かれた小説のことで、日本でもよく知られる『三国志演義』『西遊記』『水滸伝(すいこでん)』なども白話小説に含まれます。

『雨月物語』は怪異小説(理屈や常識では説明できない怪しく不思議な物語)の最高峰として名高く、その所以は、物語が単に不気味なだけではなく、人間の執念や心の闇を厳しくも美しく描いているところにあると言えるでしょう。短編9話は、日本史上最も恐れられた神様として知られる崇徳(すとく)天皇の物語「白峯(しらみね)」に始まり、友情の物語を描いた「菊花の約(きっかのちぎり)」、夫婦の物語を描いた「浅茅が宿(あさじがやど)」のほか、「夢心の鯉魚(むおうのりぎょ)」、「仏法僧(ぶつぼうそう)」、「吉備津の釜(きびつのかま)」、「蛇性の姪(じゃせいのいん)」、「青頭巾(あおすきん)」、「貧福論(ひんぷくろん)」と続き、いずれも読み手を惹きつける不思議な力を持っています。上田秋成が織り成す幻想的で優艶な世界に、皆さんもぜひ!

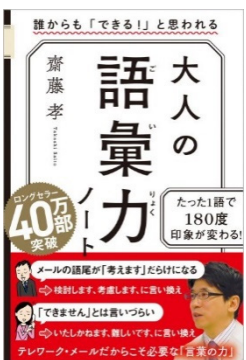


日本の古典をよむ(19)
雨月物語・冥途の飛脚・心中天の網島
(高田衛ほか 校訂・訳/小学館)

3. 「かわいい」にも色々な表現があります

会話の中でよく耳にする「かわいい!」という言葉。少し表現を変えるだけで細やかなニュアンスが伝わり、大人の表情をもった会話が生まれます。例えば、犬や猫が可愛らしい様子を伝える時には「愛くるしい」、小さな花の可愛らしさを伝える時には「可憐」、幼い子の無邪気さを伝える時には「あどけない」などと表現すれば、よりの確に動作や表情が相手に伝わり、会話に深みが出てまいります。他にも、「がんばる」でしたら「最善を尽くす」「精進する」「全身全霊を捧げる」、「おいしい」でしたら「絶品」「深みのある」「口当たりの良い」などと言い換えますと言葉に奥行きが感じられます。

目上の方と話す時、就職活動で文章を書く時など、かじこまった場面の言葉選びに悩まれている方はいらっしゃいませんか?これから社会に出ますと、友達同士のフラットな会話とは異なり、少し大人の表現が求められる機会が増えてくるかもしれません。「語彙」という言葉自体が難しそうな印象ですが、自分が伝えたいことを相手に正確に伝えるには「語彙力」が必要です。本を読み、多くの活字に触れ、様々な表現方法を目にしてみましょう。まだまだ皆さんが知らない(美しい日本語)がたくさんあります。まずは齋藤孝先生の書かれた『大人の語彙力ノート』から、言葉遣いをたしなんでみてはいかがでしょうか。豊かな表現力は、きっと皆さんをより魅力的に見せてくれることでしょう。



大人の語彙力ノート
(齋藤孝 著/SBクリエイティブ)

◆ 渋沢栄一翁が愛した言葉 ◆

口舌は実に禍(わざわ)いの起る門でもあるが、
また福祉の生ずる門でもある。

【『論語と算盤』・常識と習慣】

どんな状況でも言葉に責任を持つことは大切です。口に出した言葉が災いを招くこともあれば、福を呼び寄せることもあります。心にもないことは口にせず、心のこもった気持ちのよい温かい言葉を相手に伝えてみましょう。上手な言葉の使い方は、災いではなく、幸運を招き寄せてくれます。

※格言は『渋沢栄一 100の訓言』 渋澤健・著/日本経済新聞出版社 p.100より転載



◆ 国家試験問題を解いてみよう ◆

管理栄養士 嗜好飲料に関する記述である。最も適当なのはどれか1つ選べ。

1. 紅茶は、不発酵茶である。
2. 煎茶の製造における加熱処理は、主に釜炒りである。
3. 茶のうま味成分は、カフェインによる。
4. コーヒーの褐色は、主にアミノカルボニル反応による。
5. ココアの製造では、カカオ豆に水を加えて磨砕する。



※ 問題はメディックメディア『QB 管理栄養士国家試験問題解説 2022 別冊付録「第35回 管理栄養士国家試験問題」p.10より出題(解答は裏面をご覧ください)

ディズニーの現場力



ディズニーの現場力
(大住 著 / かんき出版)

「ギブ・ハピネス」できていますか？

リプロダクティブヘルス看護学領域 助手 瀧口里佳

私自身、学生時代から助産師新人時代は多くの参考書や闘病記を読みました。そこから医学的知識や対象へのケアの実際、著者の経験談を自分のケアの引き出しにしたり…書籍から多くを学びました。いつも書店で手に取るのは看護系のものでしたが、ここ最近ではジャンル問わずに読むようになりました。その中で出会った本を紹介します。

「ディズニー」と聞いたとき、皆さんはどのようなことが一番思い浮かびますか？アトラクションに乗るために長時間待ち、決して安くはない入園料、食事料金、お土産料金など、一見「負」の状況があるにも関わらず、年間3,000万人の入場者数、リピート率90%という業績を残している事実から何か学べるものがあるのではないかと思います、この本を手に取りました。

内容としては、「ギブ・ハピネス」のためにディズニーが行っているスタッフ教育や危機管理などが紹介されています。ディズニーを運営する会社オリエンタルランドではスタッフの9割がアルバイトですが、どのスタッフにもゲスト(客)に対して、ハピネスを提供する目標が共通理解されており、そのためにそれぞれが行動するしくみがあるようです。ゲストを幸せにするための組織づくりや絶え間ない各スタッフの努力があり、あの夢の空間がつけられ、驚異的な業績を出していることに納得することができました。

一見、看護の世界とは全く関係がないように見えますが、患者と関わる上で大切なこと、医療安全についてなど私たちの仕事でも応用できるノウハウがたくさんありました。対象者のために何ができるか、何が必要なのか考えることはディズニーのギブ・ハピネスの精神と共通するのではないのでしょうか。

たまたま出会った本に、自分自身の看護観について考えさせられ、また、人生を豊かにしてくれるエッセンスをたくさんもらえるなんて思いもしませんでした。自分の行動や言葉がけは相手にとってどうか、ハピネスを与えられているのか、与えるためにはどうしたら良いのか…考えるきっかけになる本です。ディズニー好きな方はもちろん、看護ケアに迷っている方、読者が苦手な方…読み手の状況問わず、読みやすい本になっていると思います。もう冬になりましたが、読書の冬の一冊にいかがでしょうか。

富弘美術館 Tomihiro Art Museum



詩画作家の星野富弘さんをご存じでしょうか。優しく温もりのある花絵に詩を添えた作品は、星野さんが口で描かれたものです。左は《小さな実(ぐみ)》という作品。目にするだけで胸に熱いものが込み上げてまいります。

星野さんは24歳の時に不慮の事故に遭い、手足の自由を失いました。9年にも及ぶ入院生活の中で、一時は自死をも考えたそうです。ある時、作家の三浦綾子さんが著書の中で語られていた言葉に星野さんは胸を突かれ、ご自身の命、そして自分を応援してくれる周囲の人々に感謝の念を抱くようになりました。「人は生きているのではなく、生かされている」

「生きるというのは権利ではなく、義務である」星野さんに生きる希望を灯したこれらの言葉は、私たちの心にも深く響きます。入院以来たくさんの手紙をもらい、励まし続けてくれた多くの皆さんに「ありがとう」の気持ちを伝えたいと、どんなに短くてもいいから自分の手でお礼の手紙が書きたいと、星野さんはサインペンを口にくわえ、字を書く練習を始めました。慣れない作業に最初は目が回り、高熱を出されたりしたそうですが、口で字が書けることの喜びはこの上なく、明日を迎える楽しさを感じられたそうです。

心を揺り動かされる星野さんの詩画の数々。中でも《がくあじさい》という作品に出合った時の感動は忘れられません。「結露ゆい輪はいらないといった 朝顔を洗うとき 私の顔をさすつけないように…」。繊細な紫陽花の花絵に添えられたこの詩を読んだ時、自然と涙がこみ上げ、その場に立ちすくんでしまったことを今でも覚えています。

11月30日(火)から翌年2月27日(日)まで特集展示「星野富弘の描くお正月」が催されます。美しい自然と清々しい空気に包まれた富弘美術館で、星野さんの温かい作品に触れてみませんか。



(上) 星野富弘《小さな実(ぐみ)》1993年 富弘美術館 (下) 富弘美術館 外観 画像提供: 富弘美術館 (画像の転載ならびにコピー禁止) 参考文献: 星野富弘『愛、深き淵より。新装版』学研プラス、「このころの四季-星野富弘さん 障子で悟った命への感謝」『読売新聞』2003年2月12日 朝刊31面 美術館概要: 富弘美術館(〒376-0302 群馬県みどり市栗町草木86番地) 開館時間: 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで) ※4月~11月末日までは無休 休館日: 12月~3月までの月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)、12月26日(日)~1月4日(火) ※展示替えのため11月29日(月)は臨時休館 入館料: 大人520円/小中学生310円/幼児無料/障がい手帳をお持ちの方とその介護者1名: 大人260円/小中学生150円 ※二重割引はいたしておりませんのでご了承下さい。 ※特別展の場合は特別料金となります。 富弘美術館HP: <https://www.citymidorigunma.jp/tomihiro/> ※館内での写真撮影、喫煙、飲食(カフェを除く)、携帯電話の使用はできません。 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入館時に健康状態申告書の記入や検温などのご協力をお願いしています。詳しくは美術館HPをご覧ください。

◆図書館からのお知らせ◆

学生選書ツアーの開催について図書館運営委員会で検討を重ねて参りましたが、審議の結果、本年度は開催を見送らせていただくことが決定いたしました。ツアーへの参加を楽しみにしていた学生の皆さんには残念なご報告となり申し訳ございません。新型コロナウイルス感染症の状況にもよりますが、次年度以降、再び学生選書ツアーの開催が叶いますよう努めたく存じます。

また、図書館通信を通じて何度かお願いしておりますが、図書館で借りた本を返却する際には、付箋を張り付けたままにしないか、本に何か挟んだままになっていないか、間違えて書き込みをしていないか、などを今一度お確かめの上ご返却くださいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



シクラメン

「カガリヒバナ」、「フタノマンジュウ」という和名を持ちます。前者は反り返って上を向いた花びらが「かがり火」のように見えることから、後者は原産国での「豚のパン」という呼び名が日本で「豚のまんじゅう」に転じたことから、この名が付いたそうです(原産国である地中海沿岸ではシクラメンの球根は豚の餌に用いられていました)。

花言葉は「遠慮」。昔、草花をとて愛したソロモン王が、王冠に花のデザインを取り入れようと様々な花に相談したところ、次々と断られてしまったそうです。そんな中、唯一快諾してくれたのがシクラメンでした。

ソロモン王が感謝の気持ちを伝えると、シクラメンは恥ずかしそうにうつむいてしまった…こんな伝説から控えめな印象の花言葉がつけられたそうです。冬を彩るシクラメンの季節がやってまいりましたね。2021年も残りあとわずかです。

国家試験問題(表面)の正解は4.

※解説はメテックメディア『QB 管理栄養士国家試験問題解説2022』p.901参照。

